

## 6 歌川 広重

## 東都数寄屋河岸



広重が北斎の「富嶽三十六景」に対抗して描いたといわれる「富士三十六景」内の内の一図。現在は東京・有楽町に地名のみが残る数寄屋橋は、江戸時代には江戸城外濠に架けられた橋であった。本図の右側には数寄屋橋御門の石垣が描かれている。雪や富士山の白は和紙の地色をそのまま生かしており、鮮やかな藍との巧妙なバランスによって、まばゆく輝く朝の澄んだ空気が良く表現されている。(33.9×22.3)

## 7 葛飾 北斎

## 青山圓座松



円座松は、現在の渋谷区・龍巣寺の庭にあった笠松で、幹から離れた枝には支柱が添えらるほど横に大きく伸び、その珍しい光景は江戸名所の一つであった。本図には、この円座松と富士山とともに楽しむ庶民の姿が描かれており、風景画を単なる風景とせず、庶民の暮らしと結びつけてとらえた北斎らしい手法がみられる。円座松と富士山の対比や、中景を霞で隠し近景と遠景のみで描き出すなど、北斎ならではの大膽な構図が魅力的な作品である。(25.9×38.2)

## 8 小松軒 百亀

## 桜花に雉子



小松軒百亀は、好事家の依頼で描く特注品の「摺物」を多く手掛けた浮世絵師であったが、あまり多くのことは知られていない。絵の右下にある「乙酉大」は明和2年の干支で、本図がこの年に大流行り錦絵誕生のきっかけとなつた「絵暦」であることが分かる。摺物らしい上品な色遣いの画面に和歌を巧みに配置し、穏やかな春の情景を美しく切り取つただけでなく、桜の下や草の先端に、大小曆の大月を表す文字が隠されており、錦絵創成期の趣に溢れた一枚である。(28.0×20.0)

## 4 溪齋 英泉

## 扇屋内朝妻



溪齋英泉は幕末に活躍した絵師で、数多くの風景画の傑作を発表したが、美人画においても独特の画風を確立している。左上のこま絵には、当時「忍ぶ草」とも言われ、恋歌に用いられた野草・シノブを描いている。艶やかに三昧線を爪弾き恋歌を唄う遊女の心情をなぞらえているのであろう。英泉は藍の濃淡のみで描く藍摺絵の第一人者であり、藍摺の効果を入念に計算し描かれた本図は、藍一色ながら錦の美を織りなす完成度の高い作品である。(37.0×25.5)

## 5 東洲斎 写樂

## 曾我五郎と御所五郎丸



10ヶ月間に140数点もの作品を描き、忽然と消えた謎の絵師・東洲斎写樂が、日本三大仇討ちの一つである曾我兄弟の仇討ちを題材に描いた一枚である。親の仇である工藤祐経の主君・源頼朝の元へ向かう曾我五郎を、その背後から抱きつくように捕らえた御所五郎丸。逞しい肉体は互いに一步も引かない緊張感を感じさせる。縞帳と交差するような画面構成や、五郎の顔のみを描く構図も面白く、各々の義を貫く二人の姿がドラマティックに表現されている。(32.5×22.5)

### ■ 作品送付方法

作品は台紙付で発送いたします。  
額縁付作品をご希望の方は¥10,000をご送金ください。  
(送料は当財団で負担いたします。)

## 1 柳原 太朗

アダチUKIYOE大賞 第13回 大賞受賞者作品

Yoshitoshi from 1892 to 2022



(31.9×23.0)

私が常に絵のモチーフにしている昭和の街並みと、浮世絵ならではの要素を掛け合わせました。現代にタイムスリップした幕末明治の浮世絵師・月岡芳年は、路地のグラフィティアーティストに对抗心を燃やし、自身も得意とした妖怪絵を披露しているようです。今回私の作品を木版画にしていただけたこと、大変うれしく思います。紙や絵具の質感、ぼかしが施された壁の霧廻気など、手仕事の魅力が大いに感じられる1枚となりました。

柳原 太朗

### 【略歴】

1983年静岡県藤枝市岡部町出身。  
2007年京都精華大学芸術学部マンガ学科カートゥーンコース卒業。  
カートゥーンと呼ばれる1コママンガの表現方法をベースに、日本の文化やサブカルチャーを織り交ぜた絵画作品を制作している。  
主な個展に2021年「Grand Master Challenge」(ギャラリー三条祇園・京都市)、  
2017年「Taro Sakakibara Hitokoma Manga Show」(GALLERY TOMO ITALY / MAG・イタリア)など。  
主なグループ展に2023年「清水駅前芸術祭」(清水駅前銀座商店街)、  
2022年「マンガ - 野良の芸術 マンガクラス創設50周年記念展」(京都精華大学  
ギャラリー Terra-S・京都市)など。  
主な受賞に2022年「第13回アダチUKIYOE大賞」大賞、2017年「京都府新鋭選抜展  
2017」読売新聞社賞などがある。

## 2 加藤 正臣

アダチUKIYOE大賞 第14回 優秀賞受賞者作品 懇う

『クスッ(笑)』となる作品、これが私の土台。

ちょっと可笑しかったり、ちょっと可愛いかったり、ちょっと変だったり。  
その土台を真摯に丁寧に美しく描くことで、  
作品に妙な魅力が増し『クスッ(笑)』が引き立つ。  
笑うことは楽しいし、元気になるし、頑張る力を与えてくれる。  
なので、絵を観てくれる人や自分自身も楽しくなるように、私は描く。

加藤 正臣

### 【略歴】

6浪の末、東京芸術大学デザイン科に入学。  
アートディレクター・デザイナーになりたくて就職活動するが受からず。  
卒業制作は横幅5mの大きな絵を描き、東京芸術大学デザイン科卒業。  
現在、絵だけでの生活は難しく、平日は制作、土日はバイト生活中。



(23.0×36.5)

## 3 粟津 潔

大円小円



粟津潔氏は日本を代表するグラフィック・デザイナー。本図は北斎による着物柄のパターン集『北斎模様画譜』収録の図案を、粟津氏独自の配色を使い、一枚絵として再構成した作品で、本図を含めた9図からなる木版画集『北斎模様・潔彩色図譜』として発表したものである。北斎への深い敬意と理解を感じさせつつ、色彩の大膽な組み合わせや遊び心あふれるモチーフの配置によって、木版画の特性を活かしながら粟津氏独自の世界観を見事に創出している。(36.1×25.0)